

第42回有害・医療廃棄物研究講演会

特別企画：「廃棄物不法投棄事例と対応策」講演概要

会長講演：「廃プラスチック問題を考える」

有害・医療廃棄物研究会 会長・岡山大学名誉教授 田中 勝

1. 私たちに必要なプラスチック製品とその特性
2. 廃プラスチックの特性とその問題、
3. プラスチック問題への対応
4. 廃プラスチック処理問題への対応、など

基調講演：「不法投棄等の状況と対策について」

環境省環境再生・資源循環局廃棄物規制課 (併任)不法投棄原状回復事業対策室

課長補佐 青木 喜昭

概要：毎年度実施している不法投棄等の実態調査の結果や、過去の不法投棄事例などを踏まえながら、これまでに環境省が行ってきた法規制の強化の状況や、生活環境の保全上支障のある不法投棄等に対する行政代執行による原状回復への基金制度を通じた支援の状況などを講演する。

一般講演：「東京で起きた医療廃棄物不法投棄事例と対策案・感染性廃棄物等の不法投棄対策」

J&T 環境(株)・元日本医師会 原田 優

概要：ここでは東京での医療廃棄物不法投棄事例をもとにその原因を解析し医療機関から排出される廃棄物の適正処理が行われるための必要な措置について、根本的な部分にも触れ、具体的に話をしていきたいと思います。

対策案は、優良処理業者の選択法と廃棄物処理は、特管管理責任者の院長のタスク・シフト、タスクシェアを図り、チーム体制作りの提案をします。

特別講演：「宮城県の不法投棄事例を考える」

弁護士法人 芝田総合法律事務所 代表弁護士 芝田 麻里

概要：砂押プラリ事件とは、砂押プラリ株式会社が平成31年4月1日から令和5年3月31日までの間に病院等から中間処理を受託した液体状の感染性廃棄物約200立方メートルについて許可を受けた滅菌処理以外の方法により処理を行ったとして許可取消処分を受けた事件である。同事件では、未処理の感染性廃棄物が大量に残されており、それらの処分をどのようにするか問題となっている。砂押プラリ事件の概要を知るとともに、なぜこのような事態が生じてしまったのか、処理業者、排出事業者として何かできるか検討したい。

一般講演：「古くて新しい感染症<人食いバクテリア>劇症型溶血性レンサ球菌感染症について」

有害・医療廃棄物研究会 副会長・元国立感染症研究所 細菌・血液製剤部 主任研究官
木ノ本 雅通

概要：<人食いバクテリア>とは、「劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (STSS と略)」の原因となる細菌の英語が邦訳された俗称です。この細菌は「レンサ球菌属」の一種で身近に常在している病原菌ですが、感染するとまれに劇症化する致死率の高い STSS を発症します。日本では毎年数百人の STSS 患者が報告され、これが増加する傾向にあり、2024年6月時点で最多の1000人を超え、油断できない現状にあるといえます。このことから本講演では個々の注意喚起に役立つことを目的に、演者の知り得た情報を提供します。